

【飛行距離】

- ① 整列担当は、競技者に自分の記録票を持参するよう指示するとともに、整列させる。
- ② 8cm 担当はスタートラインに並ぶときに紙ヒコーキの横幅が8cm以上であることを確認する。8cm未満の場合は折り直しを指示する。
- ③ スタートライン担当は、間隔をとって競技者をスタートラインに並ばせる。競技者が投げるときに、ラインの踏み越しをしていないか確認する。踏み越しは、ファール（記録なし）だが、1回のみやり直し可能。
- ④ 号令担当は、競技者が投げやすいように合図する。

～計測器利用～

- ⑤ 計測・記録担当は、赤外線計測器・バインダー・黒ペンを持って自分が担当する列に待機する。投げる前に自分の担当列の競技者から記録票を受け取りバインダーに挟む。また、競技者に投げ終わったあと自分の紙ヒコーキの横に立つよう指示する。競技者が投げた後は、一緒に紙ヒコーキのところまで行く。
- ⑥ 計測・記録担当はスタートラインから紙ヒコーキの一番遠い部分までを計測する。赤外線計測器を反射板に向けて計測する。
- ⑦ 反射板担当は、反射板がないところや10m以上で測定が難しいところに反射板を立てて計測・記録担当者に協力する。計測はラインテープの内側を基点とする。
- ⑧ 計測・記録担当者は、赤外線計測器のデータを読み上げて、競技者に確認し記録する（1cm以下切り捨て）。1回目の記録が終了したら競技者と一緒にスタートラインに戻り、2回目に挑戦させる。
- ⑨ 計測・記録担当者は、2回目の記録が終了したら、記録票を競技者に返却し本部へ提出するよう指示する。

【飛行時間】

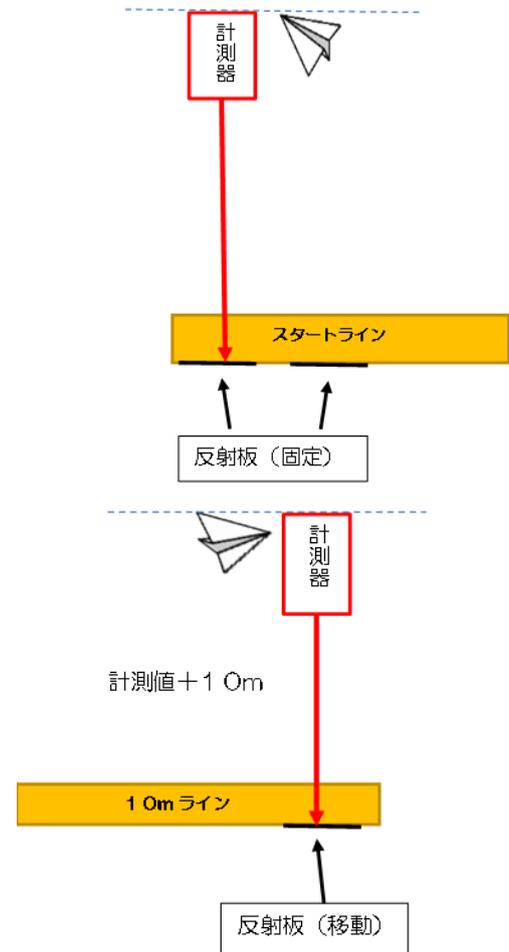
- ① 競技者から記録票を受け取った記録担当1名が記録、計測担当1名がストップウォッチでの計測を行う（2投連続）。100分の1秒まで記入する。記録記入の正確を期すために計測担当、記録担当ともに記録を復唱する。
- ② 2回投げ終わったら記録票を競技者に返却し、本部へ提出するよう指示する。
(測定しない審判は子どもたちの誘導を行う。)

【飛行距離】

<準備する物>

- ・8cm 担当（定規）
- ・号令担当（ホイッスル）
- ・計測・記録担当
(赤外線計測器・バインダー・黒ペン)
- ・反射板担当（移動反射板）

～赤外線計測器と反射板の活用図～



【飛行時間】

<準備する物>

- ・計測担当（ストップウォッチ）
- ・記録担当（バインダー・黒ペン）

<飛行時間 計測する際の注意事項>

- ・折り紙ヒコーキを投げた（手から離れた）瞬間から床に着地するまでの時間を計測。
- ・折り紙ヒコーキが人に接触した場合は、その後に床に着地した時点までの時間。ただし、競技者が申し出れば再トライすることができる。（時間が長い方を記録とする）
- ・壁・物に接触した場合は、その後に床に着地した時点までの時間とし、再トライは行わない。
- ・1秒以上高所で引っかかる等の場合は必ず再トライ。